



協 調 會
ニ ニ ヨ ス

東京本部

○事業主の時局對策

協調會の於ては去る十一月十七日正午九時の内會館に於て産業界の首領者數人を招待し、支那事變下に於ける労働政策に就て忌憚なき意見の交換をなした。

最初に水野副會長より支那事變の重大性と國民協力一致の義務を述べ、換りに替へ、續いて町田常務理事より、戦時労働事情の現状特に労働團體の動向等に關し報告があり、終つて懇談に移つたが、事業主としては新時代の要求に對し從來の一切の行かゝりを一新して積極的に協力したいとの希望であつた。

出 席 者 (順序不問)

藤原安太郎 金子堅太郎 中山 末吉 木村増太郎 中川 一雄 鶴見左吉雄 戸村理郎 藤 桂之助 森田雄一の諸氏

○官民勞資懇談會

十一月二十日正午九時の内會館に於て協調會が主催し戦後の労働對策、特に戦傷兵の生活保障及職業再教育に就ての懇談があつた。労働組合の指導原理に就ても種々意見の交換があつたが、結局小

異を捨て、大同に就くところの協調精神に基いて、労働對策が講ぜられなければならないと云ふ事になつた。

出 席 者 (順序不問)

大村 清一兵 成田 一郎氏 横澤 光雄氏 山崎 義氏 藤本 義雄氏 松岡 駒吉氏 森田 良雄氏 高山 久雄氏 西山三郎氏

協調會 水野副會長、町田、長岡、浦生各常務理事 労働管理研究會 十一月廿四日水野副會長、特選金山宗義前後的労働管理を題に中外鋼鐵業社會維持協理所長長野愛己氏同務部長高尾英夫氏、同務部長内藤誠氏より、夫々先般社會の耳目を驚動せしめた坑内火災談ひ、争議を起され、具さに苦害を蒙られたその前後の事情に就き、生々しく懇談を披露せられた。又、研究會に入つたが、話は何時迄も聞かぬ。多大の感銘を受けて閉會した。参加者約八十名。

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

労働管理研究會

協 調 會

戦後の思想問題

協調會常務理事 町田辰次郎

戦争の思想に與へる影響が、如何に甚大であるかは歴史が示す通りでありませぬ。普佛戦争後に於けるバリー・コンミン、日露戦争後に於けるロイヤル・カイルの終結、歐洲大戰後に於ける露獨革命等、戦争と思想は常に不可分の關係に置かれてゐるのであります。戦争が大きいれば大きいだけ、思想に與ふる影響も亦大きいのであります。殊に敗戦に於ける思想の變革は、戦前に於て到底想像することのできなほ深いものであります。戦勝國であつた英國、伊太利に於て、労働黨の進出、共產黨の探頭は断絶的な勢力を持つてゐたのであります。

支那事變の勃發は我國政治、經濟、社會等國民生活の全分野に亘つて一大變革をもたらすこととなつたのであります。これが戦後經營はよむべき決心を持つて應るにばならぬのであります。戦争の

十二月九日日本會議に開かれ、金澤院調査官長渡辺時次氏より「最近に於ける労働市場」と題し現下日本労働市場の詳細に對する調査報告が行はれ時局熱心なる質疑發答がなされた。

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會

工場労働管理研究會



吹 角

そこで戦後の思想對策でありませぬが、元來思想問題なるものは單なる空念佛に如何にもするものができないものであります。思想が生れるためには、その生れる原因があるわけでありませぬ。思想對策には先づその原因を除去することを最優先に考へねばならぬのであります。

在してゐるかを拵つて見ると、一、戦争と云ふ非常なる國家奉仕の爲に幾千萬の將士が死線を超えて力闘してゐること、二、負傷又は利を得て生運不遇な境遇と闘はねばならぬ幾萬の將士の存すること、三、戦死者並傷病兵の遺族及家族が生活の不安を感じるこ

日聞、名古屋市中八事を特務編制部にて、愛知縣工場、未會の共同事業で開辦、講師は長谷川隆吉氏、田中義典、協調會生後、國民協賛研究會松元君、愛知縣工場藤野田又市氏の諸氏、同市及附市の會員約百名及び愛知縣工場會後職員等、極めて盛會であつた。

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

福岡出張所

惟ふに現代社會不安の根源は、社會生活が個人中心に據れてゐることから出發するものであります。自己の利益が社會生活の指導原理であつたのであります。自分さへ利益があれば他人はどらなつてもよい、自分の國家だけ發展すれば他國は衰落してもよい、この考へ方が現代の一切の不淨な實相を生じたのであります。

ところが今日の如く國民全體として一つの目標に突進してゐる場合には、個人の恣意なる行動は許されないのであります。國民が一つの共同體となつて理想實現の爲に協力しなければならぬのであります。巷間に於て戦後の思想問題が殊更に憂慮されてゐる様でありませぬが、今日の事變は勿論從來の如き姑息な手段に依つて解決することではできません。新東洋建設の大理想實現の爲に一人々々自己の身分を自覚して、奉仕觀念に徹底することではなければならぬのであります。これは極めて平凡なことではあります。この考へ方を實行に移すことに依つて事變後の諸問題が解決されることとなるのであります。